

平成30年度の内部被ばく検査等の実施状況について（訂正版）

市では、平成23年3月に発生した東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故を受けて、独自に購入したホールボディカウンターやゲルマニウム半導体検出器を用いて、内部被ばく検査や食品等の放射性物質の検査を実施しています。

平成30年度の検査結果については次のとおりです。

1 平成30年度の実施状況

(1) 固定式ホールボディカウンターによる内部被ばく検査の結果

市民の皆様の健康管理に役立てていただくため、検査を実施しています。

平成30年度の検査結果は次のとおりです。

なお、受検者236人の預託実効線量は、全員が、健康に影響がないとされている1 mSv未満で、検出限界値も下回っておりました。

受検者数	預託実効線量		
	1mSv未満	うち不検出(割合)	うち検出(割合)
236	236	236(100%)	0(0.0%)

※ 預託実効線量は、体内から受ける内部被ばく線量の累積線量(成人は50年、子どもは70歳まで)

※ 検出限界値は、放射性セシウム134=200ベクレル、放射性セシウム137=220ベクレル(検出限界値を預託実効線量に換算した場合、「3～7歳」の例で示すと、0.058mSvとなります。)

年齢別受検状況

年齢区分	～9歳		10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳～	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
受検者数	6		14		23		28		39		126	
	3	3	7	7	13	10	17	11	18	21	66	60

※ 年齢は、H23.3.12時点で区分しています。なお、4歳未満の子どもを対象とした検査を開始したため、「～9歳」の区分にはH23.3.12時点での未出生児も含まれています。

(2) 巡回方式による内部被ばく検査の結果

県が所有する車載式ホールボディカウンターにより、山間部や南部地区(勿来・田人)等、地理的な関係から固定式での受検が困難である地域を巡回しながらの検査等を実施しています。

平成30年度の検査結果は次のとおりです。

なお、受検者285人の預託実効線量は、全員が、健康に影響がないとされている1 mSv未満で、検出限界値も下回っておりました。

受検者数	預託実効線量		
	1mSv未満	うち不検出(割合)	うち検出(割合)
286	286	286(100%)	0(0.0%)

年齢別受検状況

年齢区分	～9歳		10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳～	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
受検者数	20		18		39		38		54		117	
	14	6	18	0	32	7	26	12	39	15	48	69

(参考 これまでの検査結果)

年度別受検者数(市+県)の推移

年度	受検者数	預託実効線量 1 mSv 未満	うち不検出		うち検出	
			(割合)	(割合)	(割合)	(割合)
H23年度	3,100	3,100	2,754	88.8%	346	11.2%
H24年度	43,457	43,457	42,870	98.6%	587	1.4%
H25年度	18,678	18,678	18,546	99.3%	132	0.7%
H26年度	31,904	31,904	31,868	99.9%	36	0.1%
H27年度	3,350	3,350	3,322	99.2%	28	0.8%
H28年度	19,957	19,957	19,916	99.8%	41	0.2%
H29年度	1,884	1,884	1,880	99.8%	4	0.2%
H30年度	522	522	522	100.0%	0	0.0%
合計	122,852	122,852	121,678	99.0%	1,174	1.0%

【問い合わせ先】

保健所総務課 放射線健康管理センター 電話 27-8560